

米国での国際学会に参加して

情報工学府情報科学専攻M2 高田 紫野



はじめに

私は2011年7月11日から4日間、アメリカのフロリダ州にあるオーランドで開催されたHuman-Computer Interaction Internationalに参加しました。

10日の昼に福岡を出発し、成田経由でフロリダには同日中に着く予定でしたが悪天候の為に遅れ、日が変わってからの到着になりました。フロリダは天候が変わりやすいのか、期間中の夕方は必ず雷雨でした。到着後空港で荷物を受け取り、アメリカ流タクシーに乗り（バジェットの大きな大型の車がタクシーだったので驚きました）会場のホテルに着いたのは夜中の2時でした。

チュートリアルに参加

11日はBrain Computer Interfaceのチュートリアルに参加し、様々な脳波の計測方法・インターフェースへの利用例とそのメリットデメリットを学びました。私の英語は中学レベルですが、説明には自分の研究と同じ分野の専門用語が使われていたので、補助資料と合わせて良く理解することができました。

発表前の過激な方

会場のホテルはディズニーワールドの敷地内だったので12日はテーマパーク主体のMagic Kingdomに行き、本場のディズニーの空気を感じてきました。もちろん案内もアトラクションも全て英語でしたが、話方や状況などから理解は思ったほど難しくなく、一人でも難なく回ることができました。パーク内ではアメリカ人が多い中の日本人だったので目立ったのか、『案内しようか?』と話しかけられたり、パレードで王

子役の人から合図をかけられたりして非常に楽しかったです。

13日は午前中に別の日本の方の発表を聞きに行き、発表会場の雰囲気を感じました。そこでは質疑応答に詰まると座長や指導者が助け舟を直ぐに出していたので『国際学会といってもこんなものか。』と感じ、自分の発表はうまく行くと自信が持てました。午後は、食事・買い物が必要なDowntown Disneyに行きました。こちらはホテルからの送迎バス有りの入場料無料なので手軽に来る事ができ、お土産の購入の他に最終日には打ち上げにも利用しました。



写真1：ミッキーの水瓶像前で（買い物中に見知らぬ現地の人が声をかけてくれたので撮ってもらいました。）

いざ本番

14日は16時からの最終組の3番目

が私の発表の番でしたので、午前中は部屋に籠り発表資料確認と練習をひたすらして本番に臨みました。一番初めの発表者に対して出た質問の英語は早く難しかったので、このような難しい質問が自分の時に来たらどうしようかとここで緊張してきましたが、練習通りに発表をし、後は質疑応答のみになると肩の荷が降りたのか、質問内容はすんなりと理解することができました。私の返答の英語は非常に拙く、質問者に申し訳ない気持ちでしたが、内容に納得がいくてくれたようで、私の発表は無事終わりました。無事に終わると更に頭が冴えてきて、続く発表者に英語で質問することもできました。日本の学生からのこの行為に周りには驚いた様で、あとで教授と座長から『セッション内でお前が一番良かった。』と褒めていただき、海外での発表に自信を持つことができました。

最後に

学生の内に貴重な体験をさせていただき有難うございました。奨学金を援助していただきました明専会及び指導していただきました山崎敏正教授には厚く御礼を申し上げます。